



NPO法人 子どもセンター

ぬっく



## News Letter Vol.18

2025年3月

### 理事ご挨拶

いつも子どもセンターぬっくに温かいご支援をいただきありがとうございます。

日本が1994年に子どもの権利条約を批准してから30年が経過しました。その後長い年月を経て、2023年にようやくこども家庭庁・こども基本法ができて2年が経とうとしています。子どもの権利条約は、私たち大人に、「子どもに寄り添い、子どもの声に耳を傾ける」ことを求めています。それに沿った法律や大綱ができたことは大きな一歩ですし、ようやく少しずつ、「子どもは権利の主体である」という子ども観に基づいて、子どもの権利の保障の実現に向けての動きがでてきたのかなと感じています。ただ、本当にそれを実現するためには、国や自治体はもちろん、私たち大人ひとりひとりがしっかりとその意識を持つことが大切だと感じています。

ぬっくでは、私たち大人が、子どもたちひとりひとりに寄り添い、子どもたちの声に耳を傾けて、子どもたちの心の中にある寂しさや悲しみ、子どもたちの心の奥底にある思いやしんどさを、時間をかけて聴くこと、子どもたちの視点に気づくことを心に留めています。そして、普段のとりのめのない会話、他愛のないおしゃべり、なんでもないやり取りの中でいっしょに笑い合うことやその時間を共有することを大切にしていきたいと思っています。そんな関わり合いや経験の積み重ねが、子どもたちの心を少しずつ解きほぐして、子どもたちが安心や自信を取り戻し、自分自身の人生を、自分の足で歩み始めるきっかけや足がかりになってくれたらいいなと思います。

今後とも、皆さまの温かいご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い致します。

理事 相間佐基子

### ぬっく活動カレンダー 2024.10-2025.1

- 2024.10.18. 堺自由の泉大学 男女共同参画一般教養講座 DV/子ども虐待対策講座にて講義
- 2024.11.3&29 困難な女性への支援のあり方研究会主催  
女性相談支援員養成講座にて、『若年女性の生きづらさ』の講義
- 2024.11.4 大阪ダルクの研修会「子ども・若者支援における支援者の支援」にて、シンポジウムに登壇
- 2024.11.27 大阪公立大学V-station・ボラがくにて、『子どもシェルター』についてゲストスピーチ
- 2024.12.4 SHIONOGI社会貢献支援会にて  
『子どもセンターぬっくの活動～居場所のない子どもたちにぬくもりを～』の講演
- 2025.1.27 一般財団法人大阪府男女共同参画推進財団の、大阪府「女性のためのコミュニティスペース」支援スタッフ研修にて、『子どもセンターぬっくの活動と若年女性を取り巻く現状』の講義

## ぬっくハウス



・大阪府共同募金会「令和6年度 地域の子どもの福祉のための助成事業」により、室内のリフォームや掃除機、ブルーレイレコーダーの買い替え費用などを助成いただきました。スタッフルームの扉に小窓がついたので、扉を閉めていても外の様子がわかります。子どもたちは小窓から顔を覗かせて、用事のアピールや、用事がなくても手を振って通っていきます。スタッフルームで過ごしていてもコミュニケーションがとりやすくなりました。

・開所時に貼ったマスキングテープが傷んでいたトイレ備品入れを、ボランティアアさんがデコって下さいました！手洗いの仕方がプリントされたテープなど使っていただき、楽しい雰囲気のトイレになりました。



## Re-Co

### クリスマスパーティー



子どもたちがリクエストしてくれた料理を囲んで、ワイワイ楽しく過ごしました。トナカイを模したクッキーなどをスタッフが手作りしましたが、デザート作りを進んで手伝ってくれる子もいました。



### 年越し、お正月

年越しそばは、リクエストのトッピングをのせて夜食として食べました。なかには初めて年越しそばを食べたという子もいました。おせち準備の時、スタッフが盛り付けに苦戦していると、子どもたちが集まってきてアドバイスしてくれることもあり、賑やかな時間になりました。



## Ma-Co

Ma-Coに入居している子どもたちの大半が、高校に行き、アルバイトをしています。スタッフは、日々、朝起こすところから弁当作り、学校への声かけや夕食時の何気ない会話など、家で親がするような声かけや支援をしています。

Ma-Coでの月日が経つにつれ、子どもたちは、学校とアルバイトの両立や友達付き合いなどにより、スタッフと夕食を共にすることが減ってきていますが、家庭の高校生であれば当たり前の日常であり、これも子どもの成長だと感じています。少しでも家庭と同じような雰囲気、ぬくもりのあるホームになるよう、これからも子どもたちと対話をしながら寄り添い向き合っていきたいと思ひます。



## 「2024年度ぬっくシンポジウムの報告」

2024年12月8日に、2024年度ぬっくシンポジウムを開催しました。「ぬっくシンポジウム」は、様々な理由で家庭に居場所がない子どもたちについて、その現状をお伝えすると共に、より良い支援のあり方を広く皆さまと共に学び考えていく機会として、年1回のペースで開催しています。

今回は、「10代の孤立」という社会課題に向き合い、LINE相談「ユキサキチャット」事業、学校での居場所事業のほか、「グリ下」など繁華街に集まる若者のための「ユースセンター」事業等をされている、「認定NPO法人D×P」の佐藤千衣子さんをゲストスピーカーにお招きしました。

第一部、ぬっくの活動報告に続いて、佐藤さんにご講演いただきました。佐藤さんの真摯で温かいお話に、会場には、何度も頷きながら聞き入る方が何人もおられました。元当事者として「10代の自分が出会いたかった大人になる」という決意や、支援で大切にしていることとして「その人の人生の主役にはならない」「ひとりの人として一緒に過ごす」といった言葉に、実際に関わり続けている方が語るからこそその力を感じ、自分もできることをやり続けようと改めて素直に思い、エネルギーをもらえました。



第二部のパネルディスカッションでは、佐藤さん、ぬっく理事長の玉野、同理事の森本及び丹羽が登壇しました。子どもたちにとって先が見えないという不安は大きく、より良い（と思われる）環境であっても踏み出すことは往々にして難しいこと、子どもの意思を尊重するとはどういうことなのか、わかってもらえた（と感じられる）まで「何度でも伝える」そのプロセスこそが意見表明権の尊重になるのではないかなど、支援の難しさに日々向き合っているパネラーたちが、自身の経験も交えて語り合いました。社会全体でチームとなって子ども・若者を支えていくぞ！という熱気に満ちたひと時だったと思います。

次回のシンポジウムは、法人設立10周年記念の会となります。詳細は後日ホームページ等でお知らせしますので、皆さま、どうぞ楽しみにお待ちください！

## 「ご寄付等くださった方 2024.10.1～2025.1.31（敬称略、順不同）」

浦崎雅士、田上智子、桶谷千晶、岩本朗、藤田さえ子、内藤千賀、石塚久子、泉薫、宮地晃代、黒澤公子、谷口哲也、今井孝直、長沼千絵、田中かすみ、中島章、鍋倉義明、河野強、郡山恵里子、渡邊国和、高間量子、鈴木資子、川本美佳、松本八千代、渡邊徹、杉村徹、岡本勝美、松本友子、中川雄太、齊藤正実、石津文乃、沖亜記、大井仁美、鎌田ユリ、豊浦伸隆、康由美、岡本弘美、渡邊かおり、太平信恵、石川美佐子、松本淳、宮崎誠司、上川和子、大橋さゆり、伊藤喜美子、紅陽子、矢口敬子、椿本伸明、村上周、平内さくら、仁志川人代、浄長寺・川上玄有、千里寺・武田大信、てるうさファーム&キッチン・山地史高、チャリティショップめぐりもの・大野通子、大阪公立大学ボランティア・市民活動センターV-station、NPO法人西淀川子どもセンター、株式会社サウンドハウス、大阪商業大学公共学部中嶋ゼミナール、日証協こどもサポート証券ネット、大阪弁護士会子育てネット有志、コストコホールセールジャパン株式会社、一般財団法人H2Oサンタ、大阪ホームサービス株式会社、国際ソロプチミスト大阪-梅田、SHIONOGI社会貢献支援会、一般財団法人篠原欣子記念財団

他34名

応援会員は、46名です。(25年2月時点)



物品のご寄付も  
いただきました



# コタンNのまなざし ～終わりなき旅～

私が初めて会った時、Aちゃんはヒソヒソ声で話す子でした。以前は、ひたすら沈黙していたと聞きます。後から、どうして沈黙していたのか聞くと、「口を開くと自分の思いとは別の意味で捉えられて、自分に不利益になると思ったから」と教えてくれました。Aちゃんが自分と向き合う、他人と向き合うことを覚え、何とかヒソヒソ声で話すことができるようになった時に、私がコタンとして出会ったのです。「ヒソヒソ声で話せるなら普通の声でも話せたんじゃないか」と笑って本人と話せるようになったのは、それから数か月後の話です。

Re-Coでは、口数が少ないため他の子どもと争うことはありませんでしたが、自分の希望に沿わない事態が起きるとすぐに黙る癖が抜けず、スタッフさんは苦勞されたと思います。私が面談に行っても一言も話さないこともありましたが、口を開いたかと思えば「分かったようなことを言わないでください、気持ち悪いですよ。」と言われたこともあります。さすがに心が折れそうになりました。自分は何をしているんだろうなと思ったこともあります。自分でコタンをやると決めた以上は、Aちゃんにどれだけ拒まれても困った時に最後に頼れる大人でいようという決意をして、Aちゃんと接するようにしていました。

AちゃんがRe-Coを退居し自宅に戻って以降も、私はコタンとして定期的に連絡をとり、家にネズミが来ないように対策を整えたり、ケースワーカーさんの力も借りながら自分なりに彼女をサポートしました。そうしていると、Aちゃんが「いつもありがとうございます」「(弁護士として)新人だったのに意地悪してごめんなさい」等と言ってくれたのです！徐々に、笑顔を見られることも増えてきました。

そして18歳を迎え、生活保護を受けながら一人暮らしを始めたAちゃんが「成人しましたよ。担当終わりじゃないんですか。」と聞いてきたとき、成人したらコタンがいなくなることをずっと不安に感じていたのかと思い、胸が締め付けられる思いがしました。

今、ただ沈黙していたり、ヒソヒソ声で話したりするAちゃんはいません。ポカリスエットをLINEギフトでプレゼントした私に対し、倍以上の値段のするアイスクリームのギフト券を送り返してくれたり、クリスマスにはお菓子をくれたり…昔のAちゃんのことを思うと嘘のような、でも本当の話です。

Re-Coで生活していた時の、人の温かさやありがたみを今になって改めて感じるようで、「ご飯がおいしかった」等と思い出しては話してくれます。絶好調であるように見えるAちゃんもまだまだ課題は多いですが、高卒認定試験への意欲を示したり、スーパーで上手にお買い物をしたりする姿を見ては、親目線で感心しています。当時お世話になった皆さんの目にも入れればと、写真入りで報告させていただきます。これからも、Aちゃんと私の「終わりなき旅」を見守っていただくと幸いです。



## 「ご支援のお願い」

### ぬっく会員募集

正会員	入会費 5,000円
	年会費 5,000円
賛助会員	個人1口 3,000円
(年会費)	法人1口 10,000円

### 現金・物品寄付

- ・若者向けのもの
- ・お箸 ・マグカップ
- ・お米 ・お菓子等

### ぬっく応援会員

毎月1,000円～  
\*月1回自動決済\*

## お問い合わせ

会費納入・ご寄付は  
下記QRまで

入会金・会費・ご寄付の

振込先

三菱UFJ銀行 梅田新道支店 普通預金0206469

特定非営利活動法人子どもセンターぬっく

ゆうちょ銀行 ○九九店 当座預金0208341

特定非営利活動法人子どもセンターぬっく

